



武田 充啓

奈良工業高等専門学校 情報メディア教育センター長

「しおり」は、葉というよりは枝折り。ここでは「道しるべ」くらいの意味で考えてください。

まずは「自律」について。

これは奈良高専の教育理念にもありますね。自律を辞書で引いてみると「他からの支配や助力を受けず、自分の行動を自分の立てた規律に従って正しく規制すること」(大辞林)とあります。私は以前から自律にはそれを成り立たせる基盤としての「自立」が必要だと考えていて、その自立の意味も「他の助けや支配なしに自分一人の力だけで物事を行うこと」(同上)だと信じて疑いませんでした。

自身の規範で自らを制御し行動することができる、それが自律だとすれば、まずは誰にも頼らず自分の力でひとりだが、すなわち自立ができていなければならないだろうと。それがある人から教えられて、目から鱗が落ちました。その人は、自立とは誰にも頼らないのではなく、上手に人を頼ることだと言ったのけたのです。え？ 自立は自力ではなく、むしろ他力で？ 一体どういうことでしょう。

彼は、頼る相手が多いほど、その人は自立できると言います。もし、ある人が本当に困ったときに、この人しかいないと頼ったその相手に、でも身捨てられたら…。怖い。ですよ。その人はその相手を頼るという以上に、強く依存してしまう、いや、その人の言うがままになってしまうほど、相手に隷属してしまうかもしれません。

自律どころではありませんね。むしろ自滅のリスクです。助けて下さいと言えることが、その人のリスクを減らすように、助けてと言える相手が多いほど、その人のリスクが減ります。頼れる人が多いほどその人は自立でき、その結果自律もまたしやすくなるのです。この考え方では、自律とは、自分の力だけで自分を制御することではなく、たくさんの人たちとの関係性のなかで自分を自分らしく保つこと、ということになるでしょうか。

次に「自由」について。

あなたは高専生活で「自由」を感じていますか？ 漱石は『私の個人主義』で「自己の個性の発展を仕遂げようと思えば、同時に他人の個性も尊重しなければならない」と述べています。あなたの自由と誰かの自由がどこかでぶつ

かったことがあるかも知れません。

ニーチェは『ツアラトウストラ』で「愛せない場合は通り過ぎよ」と言っていますが、「通り過ぎる」は、もちろん攻撃や排除ではないですね。対人関係をこじらせて負の感情を溜め込まないための一つの方法、と考えるなら、それはシカトするでもなくて、距離を取ってやり過ぎすくらしいの意味が適当なのでしょう。

私は制約の中にしか自由はないと考えています。そこで最低限必要な制約となるのが、「自分の自由を認めてほしいのなら他人の自由も認めなければならない」ではないでしょうか。ルールというものは自由を制限するものではなく、むしろ自由を保障するためにこそ必要なものです。恣意は自由ではありません。「わがまま」は自律を破り、他者との関係を壊し、自滅に到るからです。「なんでもあり」はかえって多くの自由を奪います。

個々人の自由の一部分に制約を設けることによって、なるべく多くの人になるべく多くの自由が実現するようにすることがルールの本義なのです(たとえば「各々が交通信号を守る」ことで「皆が安全確実に目的地に着ける」など)。そして大切なことは、ルールは自分たちで決めることができ、また状況に応じてそれを作り変えていくこともできるという点にあるのではないのでしょうか。(紙数の関係でこれ以上はふれませんが、興味のある人は、ルールを皆に守らせる力や、その正当性についても考えてみてください。)

最後に「自信」について。

自信を持つためにはどうすればいいのでしょうか。よく尋ねられる質問の一つです。自信の根拠となるものといえば、やはり経験でしょうか。「無根拠な自信」という言葉もありますが、それにも実は「これ」とは名指せないだけで、思い込みを可能にした何らかの背景はあるのだと思います。では経験に裏打ちされた揺るぎない確信を得るためにはどうすればいいのでしょうか。

最近よく提案するのは「誰かと何かをやり遂げること」です。自分自身の経験から、これが自信になるのでは、と私は思っています。自分一人で成し遂げたことは、案外自信にならない。どこかに不安が残るものです。「一人で」と思っていることでも、実際にはたくさんの人たちから助力をもらっていることも多いですし、本当に独りきりで成し遂げられること自体が少ないからです。

「誰か」は「友だち」ではない人がむしろいいかも知れません。それほど仲良しではないが、「何か」を同じ目的にするメンバー、それくらいがいい。そういう人とはツーカーの仲ではないから、発想も違えば意見も違うだろうし、同じことを一緒に成し遂げようと思えば、当然、自律もコミュニケーションもより必要となるでしょう。

そういう同じことを志す人たちと(たとえそれがどんなささやかなことであれ)、目標を決めて最後までやり遂げることができたら、それは結果の良し悪し(他人の評価)にかかわらず、その過程を誰かと共に生きたこと自体が、その人の自信になると思うのです。身近なところで具体的に言えば、たとえば学生チャレンジプロジェクトなんかはどうでしょう。皆さん、声を掛け合ってどんどん参加しようではありませんか!

